

展示解説シート 1

平成27年度 特別展「道中日記 江戸時代の旅」

西国三十三箇所観音巡礼

西国三十三箇所観音巡礼は、四国八十八箇所遍路とならぶ代表的な巡礼で、京都を中心に三十三箇所ある観音の霊地を巡拝することです。
三十三という数字は「観音菩薩は三十三の姿に化身して、私たちを助けてくれる」というご利益にちなんだものです。

<西国三十三箇所の歴史>

奈良時代、養老年中、大和国（現奈良県）長谷寺の徳道上人が亡くなり、閻魔大王に会い、「三十三箇所の霊場を巡礼すれば、滅罪のご利益がある。巡礼を世に広めなさい」といわれ石札を渡されて生き返り、摂津国（現兵庫県）中山寺に納めました。その後、65代花山天皇が夢を見たとき、石札の存在を告げられ、河内国（現京都府）仏眼寺の仏眼上人を導師として西国三十三箇所を復興したと伝えられています。

その後、山伏や遊行聖などを中心に西国巡礼は行われ、室町時代末期になると庶民も参加するようになり、江戸時代になるとますます盛んになりました。

関東地方からの旅のモデルコースとしては伊勢神宮から西国三十三箇所を巡り、大坂、奈良、京都を見物、四国の金刀比羅山まで足を伸ばし、帰途に善光寺に参るというもので、清治郎さんもこのコースをたどっています。

<西国三十三箇所>

- | | | | |
|------|------|-------------------------------|--------------|
| 第1番 | 青岸渡寺 | 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町 | |
| | | 那智山青岸渡寺（なちさんせいがんとうじ） | 本尊 如意輪観音 |
| 第2番 | 紀三井寺 | 和歌山県和歌山市 | |
| | | 紀三井山金剛宝寺護国院（きみいさんこんごうほうじこくいん） | 本尊 十一面観音 |
| 第3番 | 粉河寺 | 和歌山県那賀郡粉河町 | |
| | | 風猛山粉河寺（ふうもうざんこかわでら） | 本尊 千手千眼観音 |
| 第4番 | 槇尾寺 | 大阪府和泉市 | |
| | | 槇尾山施福寺（まきのおさんせふくじ） | 本尊 十一面千手千眼観音 |
| 第5番 | 葛井寺 | 大阪府藤井寺市 | |
| | | 紫雲山葛井寺（しうんざんふじいでら） | 本尊 十一面千手千眼観音 |
| 第6番 | 壺阪寺 | 奈良県高市郡高取町 | |
| | | 壺阪山南法華寺（つぼさかささんみなみほけじ） | 本尊 十一面千手観音 |
| 第7番 | 岡寺 | 奈良県高市郡明日香村 | |
| | | 東光山龍蓋寺（とうこうざんりゅうがいじ） | 本尊 如意輪観音 |
| 第8番 | 長谷寺 | 奈良県桜井市 | |
| | | 豊山長谷寺（ぶざんはせでら） | 本尊 十一面観音 |
| 第9番 | 南円堂 | 奈良県奈良市 | |
| | | 興福寺南円堂（こうふくじなんえんどう） | 本尊 不空羅索観音 |
| 第10番 | 三室戸寺 | 京都府宇治市 | |
| | | 明星山三室戸寺（みょうじょうざんみむろとうじ） | 本尊 千手観音 |
| 第11番 | 上醍醐 | 京都府京都市伏見区 | |

	深雪山上醍醐寺 (しんせつさんかみだいごじ)	本尊	准胝観音
第 12 番	岩間寺 滋賀県大津市 岩間山正法寺 (いわまさんしょうほうじ)	本尊	千手観音
第 13 番	石山寺 滋賀県大津市 石光山石山寺 (せっこうざんいしやまでら)	本尊	如意輪観音
第 14 番	三井寺 滋賀県大津市 長等山園城寺 (ながらさんおんじょうじ)	本尊	如意輪観音
第 15 番	今熊野 京都府京都市東山区 新那智山観音寺 (しんなちさんかんのんじ)	本尊	十一面観音
第 16 番	清水寺 京都府京都市東山区 音羽山清水寺 (おとわさんきよみずでら)	本尊	十一面千手千眼観音
第 17 番	六波羅蜜寺 京都府京都市東山区 補陀洛山六波羅蜜寺 (ふだらくさんろくはらみつじ)	本尊	十一面観音
第 18 番	六角堂 京都府京都市中京区 紫雲山頂法寺 (しうんざんちやうほうじ)	本尊	如意輪観音
第 19 番	革堂 (こうどう) 京都府京都市中京区 靈麿山行願寺 (れいゆざんぎやうがんじ)	本尊	千手観音
第 20 番	善峰寺 京都府京都市西京区 西山善峰寺 (にしやまよしみねでら)	本尊	千手観音
第 21 番	穴太寺 京都府亀岡市 菩提山穴太寺 (ぼだいさんあなおじ)	本尊	聖観音
第 22 番	総持寺 大阪府茨木市 補陀洛山総持寺 (ふだらくさんそうじじ)	本尊	千手観音
第 23 番	勝尾寺 大阪府箕面市 応頂山勝尾寺 (おうちやうざんかつおうじ)	本尊	十一面千手観音
第 24 番	中山寺 兵庫県宝塚市 紫雲山中山寺 (しうんざんなかやまでら)	本尊	十一面観音
第 25 番	清水寺 兵庫県加東郡社町 御嶽山清水寺 (みたけさんきよみずでら)	本尊	十一面千手観音
第 26 番	一乗寺 兵庫県加西市 法華山一乗寺 (ほっけさんいちじやうじ)	本尊	聖観音
第 27 番	円教寺 兵庫県姫路市 書写山円教寺 (しよしゃざんえんきやうじ)	本尊	六臂如意輪観音
第 28 番	成相寺 京都府宮津市 成相山成相寺 (なりあいざんなりあいじ)	本尊	聖観音
第 29 番	松尾寺 京都府舞鶴市 青葉山松尾寺 (あおばさんまつのおでら、せいようざんまつのおじ)	本尊	馬頭観音
第 30 番	竹生島 滋賀県東浅井郡びわ町 巖金山宝巖寺 (がんこんざんほうごんじ)	本尊	千手千眼観音
第 31 番	長命寺 滋賀県近江八幡市 姨綺耶山長命寺 (いきやさんちやうめいじ)	本尊	千手・十一面・聖観音
第 32 番	観音正寺 滋賀県蒲生郡安土町 繖山観音正寺 (きぬがさやまかんのんしょうじ)	本尊	千手千眼観音
第 33 番	華巖寺 岐阜県揖斐郡谷汲村 谷汲山華巖寺 (たにくみさんげごんじ)	本尊	十一面観音

展示解説シート 2

平成27年度 特別展「道中日記 江戸時代の旅」

秩父札所三十四箇所観音巡礼

秩父札所三十四ヶ所観音霊場は、埼玉県秩父地区に点在し、西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所とともに日本百番観音に数えられています。この日本百観音はお参りし終えたら、善光寺に参拝するのが慣例のようです

秩父札所の開創は文暦元年（1234）と伝えられています。長享2年（1488）には確実に秩父札所が存在しますので、室町時代には成立していたのでしょう。江戸時代になると観音信仰は庶民の間で流布し、隆盛をみるようになりました。

- | | | | | |
|------|-----------------------|---------|--------|------------|
| 第1番 | 四萬部寺 | 曹洞宗 | 埼玉県秩父市 | |
| | 誦経山四萬部寺（ずきょうさんしまぶじ） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第2番 | 真福寺 | 曹洞宗 | 埼玉県秩父市 | |
| | 大棚山真福寺（おおだなさんしんぷくじ） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第3番 | 常泉寺 | 曹洞宗 | 埼玉県秩父市 | |
| | 岩本山常泉寺（いわもとさんじょうせんじ） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第4番 | 金昌寺 | 曹洞宗 | 埼玉県秩父市 | |
| | 高谷山金昌寺（こうこくさんきんしょうじ） | | | 本尊十一面観世音菩薩 |
| 第5番 | 語歌堂 | 臨済宗南禅寺派 | 埼玉県横瀬町 | |
| | 小川山語歌堂（おがわさんごかどう） | | | 本尊准胝観世音菩薩 |
| 第6番 | ト雲寺 | 曹洞宗 | 埼玉県横瀬町 | |
| | 向陽山ト雲寺（こうようさんぼくうんじ） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第7番 | 法長寺 | 曹洞宗 | 埼玉県横瀬町 | |
| | 青台山法長寺（せいたいさんほうちょうじ） | | | 本尊十一面観世音菩薩 |
| 第8番 | 西善寺 | 臨済宗南禅寺派 | 埼玉県横瀬町 | |
| | 清泰山西善寺（せいたいさんさいぜんじ） | | | 本尊十一面観世音菩薩 |
| 第9番 | 明智寺 | 臨済宗南禅寺派 | 埼玉県横瀬町 | |
| | 明星山明智寺（みょうじょうさんあけちでら） | | | 本尊如意輪観世音菩薩 |
| 第10番 | 大慈寺 | 曹洞宗 | 埼玉県横瀬町 | |
| | 萬松山大慈寺（ばんしょうざんだいじじ） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第11番 | 常楽寺 | 曹洞宗 | 埼玉県秩父市 | |
| | 南石山常楽時（なんせきざんじょうらくじ） | | | 本尊十一面観世音菩薩 |
| 第12番 | 野坂寺 | 臨済宗南禅寺派 | 埼玉県秩父市 | |
| | 仏道山野坂寺（ぶつどうさんのさかでら） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第13番 | 慈眼寺 | 曹洞宗 | 埼玉県秩父市 | |
| | 旗下山慈眼寺（きかざんじげんじ） | | | 本尊聖観世音菩薩 |
| 第14番 | 今宮坊 | 臨済宗南禅寺派 | 埼玉県秩父市 | |

	長岳山今宮坊 (ちょうがくさんいまみやぼう)	本尊聖観世音菩薩
第 15 番	少林寺 臨濟宗建長寺派 埼玉県秩父市 母巢山少林寺 (ははそさんしょうりんじ)	本尊十一面観世音菩薩
第 16 番	西光寺 真言宗豊山派 埼玉県秩父市 無量山西光寺 (むりょうさんさいこうじ)	本尊千手観世音菩薩
第 17 番	定林寺 曹洞宗 埼玉県秩父市 実正山定林寺 (じっしょうざんじょうりんじ)	本尊十一面観世音菩薩
第 18 番	神門寺 曹洞宗 埼玉県秩父市 白道山神門寺 (はくどうさんごうどじ)	本尊聖観世音菩薩
第 19 番	龍石寺 曹洞宗 埼玉県秩父市 飛瀧山龍石寺 (ひえんざんりゅうせきじ)	本尊千手観世音菩薩
第 20 番	岩之上堂 臨濟宗南禅寺派 埼玉県秩父市 法王山岩之上堂 (ほうおうざんいわのうえどう)	本尊聖観世音菩薩
第 21 番	観音寺 真言宗豊山派 埼玉県秩父市 要光山観音寺 (ようこうざんかんのんじ)	本尊聖観世音菩薩
第 22 番	童子堂 真言宗豊山派 埼玉県秩父市 華台山童子堂 (かたいさんどうじどう)	本尊聖観世音菩薩
第 23 番	音楽寺 臨濟宗南禅寺派 埼玉県秩父市 松風山音楽寺 (しょうふうざんおんがくじ)	本尊聖観世音菩薩
第 24 番	法泉寺 曹洞宗 埼玉県秩父市 光智山法泉寺 (こうちさんほうせんじ)	本尊聖観世音菩薩
第 25 番	久昌寺 臨濟宗南禅寺派 埼玉県秩父市 岩谷山久昌寺 (いわやさんきゅうしょうじ)	本尊聖観世音菩薩
第 26 番	円融寺 臨濟宗建長寺派 埼玉県秩父市 万松山円融寺 (ばんしょうざんえんゆうじ)	本尊聖観世音菩薩
第 27 番	大瀧寺 曹洞宗 埼玉県秩父市 龍河山大瀧寺 (りゅうがさんだいえんじ)	本尊聖観世音菩薩
第 28 番	橋立堂 曹洞宗 埼玉県秩父市 石龍山橋立堂 (せきりゅうざんはしだてどう)	本尊馬頭観世音菩薩
第 29 番	長泉院 曹洞宗 埼玉県秩父市 笹戸山長泉院 (ささどさんちょうせんいん)	本尊聖観世音菩薩
第 30 番	法雲寺 臨濟宗建長寺派 埼玉県秩父市 瑞龍山法雲寺 (ずいりゅうさんほううんじ)	本尊如意輪観世音菩薩
第 31 番	観音院 曹洞宗 埼玉県小鹿野町 鷲屈山観音院 (しゅうくつさんかんのんいん)	本尊聖観世音菩薩
第 32 番	法性寺 曹洞宗 埼玉県小鹿野町 般若山法性寺 (はんにゃさんほうしょうじ)	本尊聖観世音菩薩
第 33 番	菊水寺 曹洞宗 埼玉県秩父市 延命山菊水寺 (えんめいさんきくすいじ)	本尊聖観世音菩薩
第 34 番	水潜寺 曹洞宗 埼玉県皆野町 日拓山水潜寺 (にったくさんすいせんじ)	本尊千手観世音菩薩

展示解説シート 3

平成 27 年度 特別展「道中日記～江戸時代の旅～」

旅にかかった費用は？

<江戸時代の貨幣>

豊臣秀吉により全国が統一され、戦国時代の領国ごとの貨幣経済が江戸時代の初期に統一され江戸を中心とする関東では金が、京や大坂を中心とする関西では銀が中心となり本位制がとられました。また、一般の流通通貨として銅銭が用いられていました。

◆金は4進法で

1両=4分 1分=4朱

◆銀は秤で計り、重さで

1貫=1000匁 1匁=10分 1分=10厘 1厘=1毛

◆銅銭は

1貫=1000文

それぞれが別の貨幣単位として使用される状態でした。江戸時代初期は金1両が銅銭1貫(1000文)と同じでしたが、時代が新しくなると銅銭の価値が下がり、幕末には金1両が銅銭8貫(8000文)と同じになりました。

現在の通貨と比較するのは難しいですが、man@bow という web サイトでは「1両=13万円として、金1両=銀60匁=銅銭4000文とすると、銀1匁=2166円、銅銭1文=32.5円ということになります。(実際には時代により換算相場も異なっていました。)」と紹介しています。他に金100疋が約25,000円とされています。

①享保18年の大性院の羽黒山への旅(岩崎家No.666)

享保18年(1733年)5月28日～6月27日

金1両=5000文

◆宿賃(木銭)

松山(木銭18文米1升3合)、四萬部(木銭18文米72文)、白山(木銭18文米70文)、若及沢(木銭18文米75文)、出牛(木銭16文米72文)、妙義(木銭30文米72文)、伊香保(木銭24文米1升2合)、前橋(木銭25文米62文)、赤城(木銭25文米72文)、あわの町(木銭22文米□64文)、日光(坊150文)、大留(16文)、いかり(木銭20文米48文)、七原(木銭100文米40文)、柳津(木銭20文米35文)、ひ原(50文)、永居(30文)、山方(80文)、古口(30文)、水沢(60文)、山方(80文)、なつめ(30文)、すか川(37文)、なべかけ(35文)

◆舟賃

利根川(50文)

◆運賃

大石田から清水(70文)

◆参詣

出流山満願寺(141文)、大日観音(27文)

◆その他

酒(12文)、礼賃(120文)

②天保12年の清次郎の秋葉山、伊勢神宮、西国33か所、金毘羅山巡る旅(折原家No.

118)

天保12年(1841年)1月25日～3月12日

金1両=7000文

◆宿賃

滝原(150文)、船津(124文)、大坂長堀町(124文)、当麻寺(172文)、岡寺(164文)、丹波市(150文)、奈良(220文)、宇治黄檗山(148文)、武佐(164文)、大津(200文)、京都三条通六角堂(200文)、亀山(164文)、惣持寺(164文)、西宮(150文)、明石(160文)、笠原(150文)、追分(150文)、外宮(140文)、宮津(180文)、松尾(105文)、遠敷(150文)、長浜(172文)、垂水(150文)、岐阜(150文)、三嶽(150文)、馬籠(132文)、福島(150文)、贅川(160文)、会田(148文)、四分津(164文)、大戸(164文)、行田(200文)

◆川渡賃・舟賃

馬入川(15文)、富士川(16文)、安部川(24文)、大井川(64文)、中豊川(5文)、出雲川(14文)、稲木川(14文)、鳴川(36文)、日高川(32文)、和歌の浦(16文)、有田川(20文)、琵琶湖(158文)、正条川(16文)、阿曾川(32文)、音無川(4文)、琵琶湖(120文)

◆観光

四天王寺五重塔登代(16文)、曼荼羅開帳(120文)、酒吞童子金屏風拝見(6文)、善光寺仁王門(150文)、善光寺戒壇回り(6文)

◆その他

山役銭(124文)、馬札(3文)、並湯(6文)、小栗湯(24文)、布団代(1文)、京都から米原までの荷物代(10文)、茶代(大笹1朱)、茶代(行田200文)草津温泉(2朱175文)

③弘化3年の清吉の草津温泉から羽黒山、松島への旅(折原家No.313)

弘化3年(1846年)6月18日～7月23日

金1両=6500文

◆宿賃

熊谷(232文)、倉鹿宿(248文)、伊香保(264文)、河原畑(224文)、草津(300文)、四部湯中野(200文)、善光寺仁王門前(200文)、関山(200文)、瀧町(200文)、寺泊(200文)、明法寺村(148文)、新潟町古三ノ町(200文)、築地村(200文)、塩ノ町(180文)、菅ノ台(170文)、長崎(200文)、小野(200文)、わたのは(108文)、白石城下(200文)、田彦宿(332文)

◆運賃・舟賃

小山川(24文)、鳥川神奈川(100文)、亥の川(32文)、湊の渡し(24文)、広川(6文)、信州川(24文、30文)、信州川(7文ずつ)、五ノ町と新潟町古三ノ町の間(105文ずつ)、松が崎と木崎の間(4カ所125文ずつ)、真野の渡し(15文ずつ)、桃崎塩谷舟渡し(20文ずつ)、村上城下(17文)、村上城下と猿沢の間(5文)、大谷とあてら沢の間(15文)、塩釜と松島の間(100文ずつ)、鳴す川(33文)、小野川(17文)、額田の渡し(16文)、田彦宿と枝川宿の間(10文)

◆休憩・飲食代

菖蒲町(休憩40文)、持田村(休憩36文)、本庄(昼食100文、休憩32文)、水沢(24文)、峯林村(昼

食 44 文、休憩 16 文)、五町田(休憩 36 文)、新巻村(休憩 32 文)、横谷(休憩 56 文)、長野原(休憩 48 文)、三澤(休憩 30 文)、二ノ町(昼食休憩 50 文)、松島(酒 29 文)、山鳥の渡し(酒 15 文)、小口(酒手 25 文)、小野(昼食 85 文)

◆観光

阿弥陀如来堂開帳(12 文)、富山観音堂(6 文)

◆その他

わらじ(持田村 16 文)、わらじ(本庄宿 34 文)、油紙(38 文)、わらじ(水沢 28 文)、山役銭(蔵王権現 48 文ずつ)、山役銭(羽黒山金 1 分ずつ)、お札(1 枚 5 文)、案内先達(月山 140 文)、お札(月山 21 文)、山役銭(浮嶋大明神 48 文)、案内(浮嶋大明神 12 文)、案内(山寺 12 文)、案内(松島 13 文)、護摩料(金華山大金寺金 1 分半銀 2 朱)

④嘉永 5 年の亀太郎の伊勢参詣の旅 (戸田家No.149)

嘉永 5 年(1852 年)1 月 18 日～2 月 27 日

金 1 両=6300 文

◆宿賃

大沢(218 文)、品川(216 文)、戸塚(224 文)、小田原(212 文)、三嶋(272 文)、蒲原(224 文)、府中(200 文)、金谷(200 文)、見附(224 文)、あらい(200 文)、赤坂(172 文)、鳴海(200 文)、桑名(232 文)、白子(200 文)、松坂(200 文)、伊勢(248 文) 松坂(200 文)、白子(200 文)、桑名(248 文)、名古屋(220 文)、高山(172 文)、中津川(180 文)、須原(180 文)、藪原(175 文)、塩尻(178 文)、和田(180 文)、坂本(172 文 5 泊)、倉賀野(232 文)、熊谷(232 文)

◆運賃・舟賃

六合川渡し(15 文)、馬入川渡し(15 文)、藤川渡し(24 文)、安部川渡し(20 文)、大井河渡し(140 文)、天龍河渡し(44 文)、岡崎舟(13 文)、宮舟渡し(104 文)、雲津河渡し(10 文)、櫛田川渡し(12 文)、拂川渡し(6 文)、佐屋舟渡し(51 文)、難わ河渡し(8 文)、

◆橋代

名古屋・高山間(16 文、12 文)、高山・中津川間(20 文)

◆休憩・飲食代

大沢・品川間(昼食 122 文)、川崎(昼食 28 文)、平塚(昼食 72 文)、小田原・三島間(昼食 100 文、雑煮 32 文)、三嶋・蒲原間(昼食 180 文)、蒲原・府中間(昼食 36 文)、府中・金谷間(昼食 100 文)、金谷・見附間(昼食 48 文、餅 41 文)、見附・舞坂間(昼食 48 文、のしがき 9 文)、新居・赤坂間(昼食 56 文)、赤坂・鳴海間(昼食 100 文)、鳴海・桑名間(舟酒代 37 文)、桑名・白子間(昼食□14 文、はまぐり 10 文)、白子・松坂間(昼食 100 文、だんご 10 文)、伊勢(うどん 32 文)、松坂・白子間(昼食 64 文、そうめん 32 文)、白子・桑名間(昼食 48 文、そば□2 文)、桑名・名古屋間(昼食 48 文、おでん 8 文、昆布巻 8 文、餅 15 文)、名古屋・高山間(昼食 56 文、うどん□8 文)、高山・中津川(おでん 18 文、うどん 38 文、32 文)、中津川・須原間(昼食 48 文、焼飯 6 文、のしがき 18 文、菓子 13 文)、須原・藪原間(昼食 42 文、うどん 32 文)、藪原・洗馬間(昼食 48 文)、塩尻・和田間(昼食 44 文、餅 12 文、うどん 32 文、のしがき 16 文)、和田・坂本間(昼食 60 文)、倉賀野・熊谷間(昼食 100 文、甘酒 24 文、わらじ 22 文)、熊谷(昼食 108 文、うどん 32 文・42 文)

◆その他

品川(あんま 24 文)、品川(わらじ 28 文)、戸塚(あんま 24 文)、小田原(あんま 32 文)、箱根(駕籠金 2 朱 356 文)、金谷(髪結銭 32 文)、桑名(わらじ 11 文)、伊勢(万金丹 500 文)、伊勢(柳行李 400 文)、伊勢(油紙 40 文)、伊勢(たばこ入れ 548 文)、白子(わらじ 13 文)、桑名・名古屋間(小使い払い金 2 朱 200 文、まわし 6 文、わらじ 14 文)、名古屋(杯 5 文)、中津川(髪結銭 32 文)、

須原(わらじ14文)、藪原(わらじ16文)、坂本(小使い48文)、坂本(髪結銭32文)、倉賀野(わらじ22文)、熊谷(色々諸割金納264文)

⑤嘉永5年の惣七の西国への旅 (渡辺家No.2983)

嘉永5年(1852年)1月18日～3月14日

金1両=6300文

◆宿賃

草加(248文)、品川(248文)、程ヶ谷(248文)、大磯(銀2匁)、箱根(銀2匁)、吉原(銀2匁)、江尻(銀2匁)、府中(232文2泊)、かな屋(232文)、三久ら(224文)、石打(200文)、角屋(180文)、赤坂(200文)、ならみ(200文)、桑名(124文)、上野(200文)、新茶屋(200文)、大かせ(172文)、野尾(175文)、三浦(175文)、そね(172文)、新宮(200文)、那智山(148文)、熊野本宮(255文)、近露(180文)、田辺(224文)、原谷(180文)、日方(200文)、粉川(200文)、高野山延命院(224文)、大坂(248文)、大坂(200文)、腰部(200文)、岡寺(136文)、奈良(200文)、下醍醐(180文)、草津(180文)、武佐(200文)、上坂本(200文)、亀山御城下(200文)、総持寺門前(175文)、西宮(164文)、大蔵谷(164文)、丸亀(半旅籠役所銭100文)、金毘羅(172文)、宝津(半旅籠120文)、姫路(180文)、かも川(164文)、福知山(200文)、宮津(220文)、松尾観音前(180文)、小浜(200文)、今津(224文)、谷汲門前(164文)、大田(200文)、大井(200文)、三留野(172文)、大多(148文)、福嶋(190文)、洗馬(200文)、青柳(190文)、善光寺(200文)、榊(200文)、小諸(200文)、松枝(216文)、伊香保(248文)、高崎(230文)、熊谷(232文)

◆運賃・舟賃

大井川(140文)、木田川(12文)、天龍川(12文)、名古屋から桑名(65文)、二木島より木野本まで(64文)、日高川(20文)、草津より武佐まで(24文、28文)、矢乗瀬より舟(38文)、高砂より丸亀(銀9匁)、高砂(舟役銭5文)、竹生島(100文)、竹生島(舟置き5文)、太田渡し(24文)、丹波川(150文)、

◆休憩・飲食代

草加(お茶代2朱)、程ヶ谷(お茶代300文)、箱根(お茶代2朱200文)、府中(お茶代500文、2朱)、昼食(府中100文)、赤坂(お茶代2朱)、鳴海(お茶代2朱)、京都(弁当代100文)、三留野(昼食72文)、三留野(お茶代200文)、立町(昼食16文)

◆観光

比叡山(48文)、

◆その他

新宮大権現(山役銭33文)、礼料(33文)、那智山(山役銭124文)、小栗判官湯(入浴12文)、白川殿(杯36文)、高砂(布団100文)、山役銭(竹生嶋6文)、山役銭(谷汲寺13文)、冥加銭(善光寺6文)

⑥文久2年の惣七の香取・鹿島神宮と房総の旅 (渡辺家No.848-1)

文久2年(1862年)2月20日～3月9日

金1両=6700文

◆宿賃

臼井(324文2泊)、源太河岸(300文)、いたこ(300文)、大船津岸(300文)、鹿島神宮(3人前金2朱、相料金1分)、銚子(324文)、飯岡(524文昼食代含む、132文)、東金(332文)、笠森(300文)、御宿新町(338文)、前原(332文)、なご町(348文)、金谷(332文)、鹿野山(350文)、木更津(316

文)

◆運賃・舟賃

幸田渡し(400 文)

◆休憩・飲食代

臼井(昼食 132 文)、成田山(昼食 124 文)、幸田渡し(酒代飲料 2 朱)、押砂(昼食 148 文)、津の宮
鳥居岸(昼食 136 文)、息栖大神宮(昼食 132 文)、清水(136 文)、石堂(昼食 140 文)、金谷(昼食 148
文)、天神山(136 文)

◆観光

鹿島神宮(御参代他金 1 分)

⑦文久 2 年の惣七の温泉の旅 (渡辺家No.848-2)

文久 2 年(1862 年)7 月 9 日～13 日

金 1 両=6700 文

◆宿賃

熊谷(348 文)

◆その他

大戸(男衆 1 人 24 文、女中 1 人 200 文)

⑧文久 3 年の惣七の秩父観音霊場の旅 (渡辺家No.848-3)

文久 3 年(1863 年)2 月晦日～3 月 6 日

金 1 両=6700 文

◆宿賃

秩父 25 番岩谷山久昌寺門前(280 文)

◆運賃・舟賃

荒川(28 文)

◆休憩・飲食代

大宮町(132 文)、白久村(148 文)

《まとめ》

旅にかかった費用については、時代により「金」に対する銅銭の価値が変わりますので、一概には言えませんが、1 文が 32.5 円、1 朱が 8,000 円と考えると、現在と当時の比較ができます。当麻寺の中将姫の曼荼羅の見学は 3,900 円、那智山や熊野本宮への入山料が 4,000 円、善光寺の戒壇廻りが 20 円、酒吞童子の金屏風見学が 20 円、四天王寺の五重塔の登り代が 520 円となります。食べ物については素麺 1,040 円、うどん 1,040 円、団子 330 円、ハマグリ 330 円、おでん 590 円、甘酒 780 円などとなります。

大井川の渡し賃は、天保 12 年では 64 文 (2,080 円)、嘉永 5 年では 140 文 (4,550 円) と大きく違いますが、天保 12 年には 64 文 2 人払いとありますので、嘉永 5 年も 2 人分の料金が記されていたのかもしれませんが。

宿泊代は、時代が下れば下るほど上がる傾向です。天保 12 年では 150 文 (4,900 円) 前後が、嘉永 5 年では 200 文 (6,500 円) 超えが、文久 2 年では 300 文 (9,800 円) 超えが多いようです。

茶代も多くみられます。茶代は宿泊費の他に払われるもので飯売り女などの女郎代と推定されま

す。200～300文（6500～9800円）が多いですが、500文（16,300円）や2朱（16,000円）も見られます。草津温泉では宿泊代を含め1日で2朱175文を支払っています。恐らく、2朱が女郎代、175文が宿泊代であったのかもしれませんが。本陣や脇本陣など大きな旅籠ではあまり見られませんが、嘉永5年の惣七の旅では、往路の日光道中や東海道では2・3泊に1回ほど茶代が見られますが、伊勢道中以降は極端に少なくなるようです。